

つ・な・ぐ



身近な「通いの場」でいきいきと！



地域にはさまざまな居場所がありますが、そのひとつ「通いの場」をみなさんはご存知ですか。「通いの場」は高齢者の皆さんが定期的に地域で集まり、気軽におしゃべりしたり、健康に役立つ体操や趣味のプログラムに参加できる場です。

市民活動センターにも「通いの場」を開催するためにできた団体がいくつか登録されています。それぞれが自分たちの持ち味を活かし活動しています。

通いの場

「藤松庵」

代表の自宅離れの「藤松庵」と名付けたお茶室で抹茶を楽しみながら、楽しいおしゃべりの時間を持たれています。おしゃべりする中で近くに買い物をする場所がなく、困っている高齢者がいることに気づき、最近では自宅ガレージでマルシェも開催。野菜やパンなどが参加者に好評です。

開催場所：今川「藤松庵」

開催日：火曜日（月に1回）※マルシェは毎週火曜日

連絡先：080-1160-7971（藤居）

海楽よりどころ
ひだまり

社会福祉協議会（東2支部）で活動している仲間4人が立ち上げた団体。開催日の10時から15時までの間、いつでも入退室可。また、健康相談や介護保険相談などにも対応していただきます。「楽しい」に加えて、「頼りになる」シニア世代の居場所を目指しているとのこと。のぼりやパンフレットの準備も整い、1月から、いよいよ活動開始です。

開催場所：海楽中央自治会館

開催日：毎月第1・3木曜日

連絡先：047-352-2059（古澤）

ペーパークラフト
ジョイ

12月に登録された団体です。会の名前のとおり、ペーパークラフトを楽しみながら、おしゃべりし、交流したいとのこと。作品の写真をインターネットで友人と共有したり、パソコンやスマホの操作も教えてもらえるようです。楽しみの幅が広がりますね。

開催場所：市民活動センター（市役所10階）

開催日：毎月第3水曜日

連絡先：090-2241-1515（越原）

コロナ禍の影響もあり、引きこもりがちな高齢者が以前より増加傾向にあります。健康を維持しながら、いきいきと暮らすには外に出て、人とふれあうことは欠かせません。とりわけ、健康・体力面で心配を抱えている方にとっては、できるだけ近所に「ふれあう場」があることは重要なポイントです。

その機会を提供してくれるひとつが「通いの場」。これまでも老人会をはじめ、高齢者が気軽に集える場所はいくつかありましたが、さらに、身近な場所でさまざまな場ができることにより、参加しやすくなりました。

このような「場」を上手に利用して、毎日の生活をより楽しいものにしませんか。

まちづくりフェスタ
with

今年もまちプラ連絡会との共催にて開催。体育館や運動場など施設全てが会場となり、ご来場のみなさんと参加団体がいっしょに、そしてひとつになって作り上げる楽しいイベントです。

日時 3月19日（日）10時～16時
場所 まちづくり活動プラザ

展示の他、さまざまなワークショップ（ハンドクラフト・寄せ植え体験・体操など）や映画上映&おしゃべり会、鉢花、お弁当、焼き菓子などの販売も予定されています。どうぞお楽しみに!!



詳細はまちプラ連絡会を
ホームページで
ご覧ください



コロナ感染状況によっては、内容の変更、中止となる場合もあります。

国際協力の現場から学ぶ 支援すること・支え合うこと

2022年10月29日(土)、まちづくり活動プラザにてまちづくり講座「国際協力の現場から学ぶ～支援すること・支え合うこと」を開催し、52名が参加しました。認定NPO法人シャプラニール＝市民による海外協力の会の横田好美さんをお招きし、バングラデシュでの活動についてお話しいただき、そこから参加者と共に国際協力における大切な視点と私たちができることについて考えました。

写真提供：(特活) シャプラニール＝市民による海外協力の会

家事使用人として働く 少女たち

バングラデシュでは約170万人の子どもが児童労働に従事していると言われています。そして女の子の多くが家事使用人として働いていますが、家の中で働いているため外からの支援が届きにくく、その実態は正確には把握されていません。小さな子では5歳から学校にも行けず、友達と遊ぶといった子どもらしい時間も持てず、朝6時から24時過ぎまで、わずかな休憩時間以外は雇い主の家の料理や片付け、掃除、洗濯、子守りなどのあらゆる家事を行っている場合もあります。その問題解決のためにシャプラニールでは複数の支援センターを設け、少女たちに基礎教育や技術訓練を実施。あわせて、現地のパートナーNGO団体とも協力しながら、雇い主への家庭訪問や子どもの権利に関するワークショップを行うなど、地域住民へ児童労働の弊害や教育の大切さなどについての意識啓発を行っています。また行政には子どもたちを保護する法制化を働きかけています。

シャプラニール＝市民による海外協力の会



1972年に設立され、バングラデシュ、ネパール、日本で貧困問題解決に取り組む国際協力NGO。「誰も取り残さない」をスローガンに掲げ、子どもの教育支援、児童労働削減、防災事業、フェアトレード活動、在住外国人への取り組みと、その活動は多岐にわたっています。
URL <https://www.shaplaneer.org/>

知ることが支援の第一歩

国際協力イメージしやすいのが支援物資を送ることですが、団体発足当時にシャプラニールの活動で、子どもたちのためにと考えて現地に届けた品物が、翌日に市場で売られていたことがあったそうです。日本から持ち込んだ品物が、現地の流通に影響を与える可能性もあり、その効果も長くは続きにくい。問題の解決のためには根本原因を解消するための支援を継続的に行うことが大切だということがお話から伺えました。そして、その第1歩は現地の実情を知ること。シャプラニールが家事使用人の少女たちの問題に気付いたのもバングラデシュでストリートチルドレンの支援を行った時、路上に出てくる女の子が極端に少なく、疑問に思ったことがきっかけだそうです。外から見ていただけでは気付けなかった問題です。

フェアトレード商品購入で 現地の人々を支援

国際協力のために私たちができることはたくさんあります。例えば、国際協力に取り組む団体の会員になって活動をしたりその団体に寄付をしたりすることや、フェアトレード商品を買うことも支援につながります。本講演と同時に開催したフェアトレード展ではハンドメイドの雑貨や、コーヒー、石鹸などが販売されました。これらの商品を購入することは生産者の

みなさんの収入につながり、生活向上を応援できる機会となります。フェアトレード商品に記された生産者の人々のメッセージに触れ、来場者は、その背景にある生活に思いを馳せながら、買い物を楽しみました。また、来場者が買い物で知った海外の問題を他の人に伝え、関心を持つ人が増えれば、それも支援の一つです。

私たちが問題に目を向けると同時に、そこにいる一人ひとりにも関心を持ち、つながる気持ちで自分にできることを行った時、「支援する・される」関係ではなく、「共に問題解決に取り組む」関係が生まれるのではないのでしょうか。



シャプラニールの活動からは、現地で生きる子どもたちへの深い眼差しを感じました。今この瞬間も家事使用人として働く少女が今日を乗り越えるために必死に働きながら生きています。寄付や、フェアトレード商品の購入など、一人ひとりができることを選択し、彼女たちの生活が少しずつよくなることにつながるアクションをしていきたいですね。

(市民ライター 西橋 友理)

市民活動センターにも国際協力の分野で活動している団体があります
30年来活動を続けている、タイの子供たちを支援する会「コープクン・マーク」
そして発足間もない「Heartship Myanmar Japan」
この2つの団体が何を大切にしながら支援活動をされているのかをご紹介します

ギフトの気持ちで文具を届ける

タイの子供たちを支援する会「コープクン・マーク」

1991年からタイ・ラオスの小学校などに日本各地から寄付された文具・運動具・楽器を届ける活動を行っています。定期的に行う文具等の発送のための仕分け、荷造り作業には当市民活動センターの「若者のための夏休みボランティア」を通じてこれまで多くの学生も参加し、国際協力について知り、考える機会になっています。その仕分け作業の際に、事務局の方が伝えていることは、文具を「送る」のではなく「贈る」のだということです。「箱を開けた子どもたちが笑顔になれるように届けましょう」と声かけされています。

そのため、一つ一つ丁寧に作業を進めます。鉛筆はすべてきれいに削り、ペンはずスムーズに書けるかチェック、シャープペンシルには芯もセット。箱から取り出したらすぐに使える状態に整え、種類ごとに箱詰めしていきます。これまでに何度も現地を訪問し、受け取る子どもたちの顔が目に浮かぶから、また何が必要か、どんな状態で届けられるのがベストなのかを把握しているからこそその言葉であり、作業への取り組み方です。

文房具を受け取った子どもたちの様子は随時、

ホームページに掲載されているので、この活動に関わった人々も作業をして、それで終わりではなく、その先を知ることができます。

コープクン・マークはタイ語で「ありがとうございます」の意味。「贈ってくれてありがとう」、受け取ってくれて「ありがとう」。寄付すること、支援することを越えた人のつながりが、そこにはあります。



寄付された文具をチェックしながら仕分け中

団体の詳しい内容はこちらから↓

URL <http://www.khoopkhunmaak.com/>



今、必要なものを必要な人に届ける

Heartship Myanmar Japan

会の代表のソウミさんと事務局長の原口さんのお二人は、2015年から市内の少年サッカーチームで集めた中古のサッカー用品をミャンマーの子どもたちに届ける活動を行っていました。ところが、コロナに続き、2021年のクーデターで国内情勢は悪化。住む場所や食料もままならない厳しい状況の人が、多く生まれました。その窮状を聞いて、もっと何か力になりたいと同年10月に団体を立ち上げて本格的に活動を開始。ホームページや講演などで、現地の様子を伝え、賛同者からの寄付やグッズの販売で支援



学校再開！手にしているのは届いた文具

金を調達。物流が途絶え、渡航も困難なため、国際送金を受け取ったミャンマーのNGOスタッフが品物を購入し、届けるという形で支援を行っています。現地との協力体制がしっかりできていることで、今必要なものが、必要としている人に届く仕組みとなっています。これまでに支援金で米の配付、家の再建、学校再開のためのサポートなどを行いました。

活動で気を付けているのは、現地のNGOスタッフの写真や名前がホームページなどに出ないように細心の注意を払うことだそうです。政治的にデリケートな問題も掲載しているのでその配慮からです。もう一つは支援の内容や現地の様子を詳細に報告することです。それが寄付するという一方通行の支援ではなく、それを受け取った人との顔の見える双方向の関係づくりにつながっています。「遠い国の誰かでなく、身近なあの人の力になりたい」と感じる、それが支援の輪が広がるきっかけになるのではないのでしょうか。

団体の詳しい内容はこちらから↓

URL <https://heartshipmyanmarjapan.org/>

団体応援講座

おカネとヒトについて話し合う 「トコトン ミーティング」



市民活動団体にとって「おカネ」と「ヒト」の問題は、団体の継続的な運営を考える上で重要な課題です。団体の方々からは日常的な相談などの中で、資金調達、高齢化や後継者不在に悩む声が多く聞かれます。

そこで、これらの課題についてより具体的に話し合える場を設け、互いの状況を理解し、ともに考えや意見を出し合うことにより、課題解決につながるヒント、手応えを見いだせるよう、グループワーク主体の形で団体応援講座を開催します。ぜひご参加ください。

■日 時：2月4日（土）13:30～16:00

■場 所：まちづくり活動プラザ 3階第2多目的室

■講 師：認定NPO法人
ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
(NPOクラブ)
事務局長 鍋嶋 洋子さん

■対 象：市民活動団体

■定 員：30名（要申込 先着順）

■申込先：センターまで
直接、電話、FAX、E-mailにて

※市民活動団体とその課題について、お話しを伺ったあと、グループワーク中心に講座をすすめます。



スタートアップ講座のご案内

センターホームページ、広報活動に役立つ情報、大型プリンターなどの便利な備品利用について、知っていただく講座を開催しています。

- ・センターホームページ（マイメディア）活用方法
- ・センターの団体支援
- ・印刷機の使用方法和原稿作成時の注意事項
- ・大判ポスター・横断幕作成方法

■日時：毎月第2木曜日10：00～12：00

毎月第2日曜日10：00～12：00

※上記日程から希望日時を選んでください

■場所：市民活動センター

■対象：新規利用承認団体

（既に利用している団体も可）

■定員：2団体8名まで

■申込：センターまで電話、FAX、E-mailにて
お申し込みください

※センターホームページ（マイメディア）活用方法のみの講座も開催できます。日時は希望をもとに調整し、決定します。

センターホームページを

もっと活用しませんか！

～マイメディアで情報発信を～



センターホームページ内には団体ごとのページ「マイメディア」があります。

団体紹介はもちろん、イベント告知や活動報告、ボランティア・メンバー募集などに役立ちます。インターネットで浦安市の市民活動団体を検索すると「マイメディア」にアクセスする機会が多いです。また、団体独自のホームページをお持ちの方は、ここにリンクを貼って誘導することも容易になります。

「マイメディア」を活用して、ますます活発な活動を！ まずはトップページに写真を入れることから始めてみませんか。

センター日誌より

忙しい合間を縫って久しぶりに顔を見せマくれた「境川にこいのぼりを泳がせる会」の代表の方。聞いた話によると、発足30周年を迎え記念行事の一環として2月に「夢こいのぼり30年の歴史」と題した展示会を開催されるとのこと。

センターの相談窓口には、各種相談の他、さまざまな情報が寄せられます。中でも団体さんから直接伺う事業の案内や報告からは、頑張っている様子が見えマくるようで、こちらもつい嬉しくなッマお話しが長くなることも…。長話には要注意！ですわ。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2023年1月10日

〒279-8501千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎10階)

TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722

E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp

URL <http://u-shimin.genki365.net>

